



長久3(1042)年、高野山の学僧善應僧都の開創と伝えられる長久寺。寛永6(1629)年に再建された本堂(観音堂)の意匠には桃山時代の名残があるという。

長久寺

伝説と歴史の舞台を歩く

彦根市
DATA

● 歩行距離 約3 km
● 歩行時間 約1時間



『皿屋敷』は悲恋物語？お菊の皿が残る寺

お菊の幽霊が井戸で皿を「いちま〜い、にま〜い」と数える有名な怪談「皿屋敷」は、播州・姫路や江戸の番町を舞台にした講談や芝居、小説等で知られているが、これによく似た話は全国にあるらしい。彦根市後三条町にある長久寺もお菊ゆかりの地で、実説として次のような話が伝わっている。

井伊家に仕える高官武家である孕石家の跡継ぎ・政之進は、侍女お菊と相思の仲であったが、政之進には亡き親が決めた許嫁がいた。家と自分のどちらが大事なのか、お菊はその本心を確かめるため孕石家に代々伝わる家宝の皿10枚のうち1枚を故意に割ってしまう。疑心を抱かれたことに政之進は口惜し

中国古渡りの白磁の皿は、彦根藩初代藩主井伊直政が関ヶ原の戦功により徳川家康から拝領したもので、その後、大坂夏の陣での武功を称え、井伊家から孕石家に与えられた由緒あるものだという。当初9枚あったが、展示会で3枚を紛失、6枚だけが現存している。



寺宝のお菊の皿(※非公開、事前予約すれば拝観可)

がり、残りの皿を刀の柄頭で打ち割り、お菊を手討ちにする。その後、政之進は出家し、お菊を供養したという。これは怪談でなく、悲しい恋の物語である。その後、悲運の死を遂げた娘の供養のために、お菊の母親が割れた皿を継ぎ合わせて長久寺末寺に奉納したという。この皿

が長久寺に伝わっている。お菊の墓もこの寺の無縁塔に祀られていて、毎年8月9日の大法会(千日参)には供養が行われている。雨壺山のふもとに諸堂が建つ長久寺の境内は趣があり、千鳥ヶ丘公園、七曲がりの仏壇店街、芹川の堤とあわせて散策するのもいいだろう。



モデルコース

ひこね芹川駅 10分、中芹橋 10分、芹橋 10分、長久寺 8分、千鳥ヶ丘公園 10分、中芹橋 10分、ひこね芹川駅

※移動時間はあくまでも目安です。
※長久寺(☎0749-22-0914) / JR彦根駅から「河瀬駅」「多賀大社前駅」行きバスで芹橋下車。徒歩5分。

バックナンバーをKEIBUNホームページ「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中!

<http://www.keibun.co.jp>

※養春院(現在の橋向町蛭子神社付近)。廃仏毀釈で廃寺となり、長久寺へ移された。